

神に生きる

ルカによる福音書二〇章27〜40節

神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きるからである。(38)

復活を信じないサドカイ派の人たちがイエスに議論をしかけてきました。ある夫婦に子どもがなく、夫が先に死んだため、律法に従って妻は夫の弟と結婚しました。ところがその夫も子どもがないまま亡くなり、ついに七人も夫を迎える羽目になったのです。やがての復活の時、彼女は誰の妻になるのかと質問しました。主イエスは彼らと同じ次元で議論することをせず、彼らの決定的な過ちを指摘されました。それが今日の聖句です。彼らは命のない人間を想定することによって、神をも命のない死んだ存在にしてしまったのです。被造物である人間が生きるということは、永遠に生きておられる神との関係の中で生きることです。神に対して生きることをやめるとき、復活どころか、今ここで人として生きることをやめてしまうことになります。生ける神に対して生きようではありませんか。